

ペアレント・トレーニングが及ぼす ADHD 児の母親の養育ストレス改善のメカニズム研究

福井大学子どもまのこころの発達研究センターの友田明美教授らの研究グループと神戸大学国際文化科学研究科の牧田快特命講師は、ADHD 児を持つ母親がペアレント・トレーニング (PT) による介入によってどのように養育困難性を改善するのか、質問紙および MRI を用いて検証しました。結果、質問紙による評価(育児ストレス尺度 Parenting Stress Index [PSI], 不適切な育児スタイル Parenting Scale [PS])では、PT 介入により PSI (親尺度と子尺度)および PS (感情的で厳しすぎる対応の尺度) が改善していました。また、MRI による感情評定課題遂行中の脳活動は、PT 前に比べて PT 後に顔表情の感情の処理や知覚に関わる左後頭紡錘状回の活動が高まっていました (図 1)。これらの結果から、PT を受けることで母親のストレスが軽減され、脳活動が活性化した可能性を反映していると解釈されました。本研究の成果は、2023 年 4 月 20 日に科学雑誌「Brain Imaging and Behavior」に掲載されました。

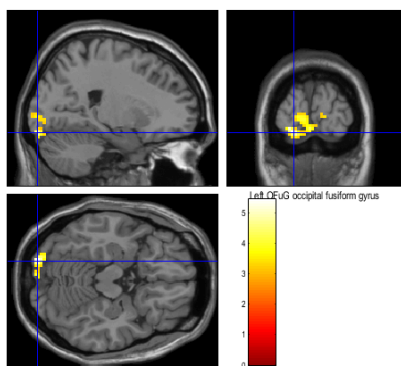


図 1. 感情評定課題時の母親の脳活動。
PT による介入後に活動が有意に高まっていた領域

Makita K, Yao A, Shimada K, Kasaba R, Fujisawa TX, Mizuno Y, Tomoda A. Neural and behavioral effects of parent training on emotion recognition in mothers rearing children with attention-deficit/hyperactivity disorder. *Brain Imaging and Behavior* (2023).

<https://doi.org/10.1007/s11682-023-00771-9>